

八千代駿台会創立 30 周年記念

第10回マンドリンコンサート盛大に!!



若葉漲る新緑の梅雨の下、八千代駿台会創立30周年記念第10回明治大学マンドリンコンサートが令和元年と相まって、7月7日(日)八千代市市民会館大ホールを会場として開催された。

当日は生憎の雨模様ながら3年振りの開催を待ち焦がれたかの如く14時開場にも拘らず、正午過ぎにはロビー内で列を作る盛況さ。また場内整理担当会員もこの盛況に場内整理に汗ダクの態。

当日は雨天による足下の悪さ、事故防止面等々を考慮しての配慮から予定の14時入場を13時入場開始と言う臨機応変の処置。

場内は、入場開始となるやアッという間に上下階共に満席状態となり聴衆は14時30分の開演を待つばかり。

次いで演奏会開始に先立ちセレモニーが行われ鈴木副会長(41年商卒)の司会のもと北川会長(42年工卒)の挨拶(別掲)、服部市長からの祝辞を頂戴し来賓各位、並びに当会顧問団等の紹介更には北川会長より本演奏会の収益金の一部が社会福祉協議会櫻井豊会長に贈呈された。

演奏会は定刻14時30分に校歌「白雲なび

く」の軽快なリズムに乗って演奏の火蓋が切られた。

指揮者甲斐靖文氏(37年法卒)の卓越した指揮の下、ゲストに芸能歴60年を誇るギターと歌の大御所、アントニオ古賀氏を迎え演奏学生30数名から構成され今村愛さん(情報3年)の流暢なユーモア溢れる司会のもと演奏会は前回に引き続き2部構成となり第1部「世界の名曲」第2部は「日本の心」のプログラム構成で熱演、熱唱と相まって会場は終始興奮の場と化し、特に演奏最後を飾るアンコールの場に於いてはゲスト歌手古賀氏の熱烈音頭で聴衆総立ち、大合唱のルツボとなり、一同興奮冷めやらぬ中余韻を残して16時50分閉会となった。

又会場ロビーには倉田正之氏(39年経営卒)の企画、制作による第1回～第9回に亘るマンドリン演奏会の歴史をつずるパネル展示があり、好評を博した。

尚、最後に御参画頂いた実行委員会の皆様方更には関係者の皆様方の絶大なご支援ご協力を頂き誠に有難うございました。

薫風漂う五月晴れの五月

令和元年第31回総会開催

新緑の5月、八千代駿台会第31回定期総会が元号も新たな令和元年5月19日(日)15時から八千代市ユアエルム4階エルムサロンに於いて交友会千葉地域支部幹事菖蒲小百合様のご出席を得て開催された…… 会は伊藤副会長(43年商卒)の開会宣言の後、冒頭に北川会長(42年工卒)より日頃の会員各位の当会協力に対する謝辞が述べられると共に特に事業面に於いては生憎当日雨天の為中止の止む無きに至った「梨狩り」を除いて円滑に実施され関係各位の尽力に対して謝意表明があり、更には母校の現況にも触れられ受験生数では関東2位の地位を保つ等その人気の高さに触れ、且つ司法試験合格者数が増え社会的にも高評価を受けている等々、又マスコミ等にも取り上げられ母校の評価も一段と向上しOBとしても心強い等。

更には本年10月に実施される第55回明治大学校友会千葉大会出席への会員の協力呼びかけ、又7月7日実施の第10回マンドリンクラブチャリティーコンサート(八千代市市民会館)成功への会員の一層の協力要請がなされた。

次いで議長選出に移り満場一致で前年に続き副会長鈴木士郎氏(41年商卒)を選出し鈴木議長の円滑な議事進行のもと議案審議に入り第1号議案(平成30年度事業報告)第2号議案(平成30年度会計決算報告、会計監査報告)第3号議案令和元年度事業計画(案)第4号議案令和元年度八千代市民会計予算(案)がそれぞれ上程された。

尚、各担当理事から報告説明あり、審議の結果いずれの議案も満場一致で承認された。

次いで令和元年度は役員改選期なれどマンドリンクラブチャリティーコンサート開催等の関

連に於いて現行理事全員の続投が全会一致で承認された。

最後に伊藤副会長から7月7日実施のマンドリンクラブチャリティーコンサートの準備状況について説明報告があり16時30分に議事は遅滞なく終了し八千代駿台会は令和元年度に向けての新たなスタートの運びとなった。次いで講演会に移り講師に当会会員柳沢豊子女史(50年法卒)を招聘し「福祉の仕事の経験」の演題で講演を拝聴した。

柳沢女史は現在社会福祉関係の業務に従事され自己の生い立ち、学生時代の事、多年にわたる社会福祉に関する体験談等の一語一語に一同深い感銘に打たれた。(会報30号に会員報告として女史の絵画の記事を掲載させて頂いています)

講演会終了後18時から懇親会に移行し北川会長の挨拶の後、小林衆議院議員を始め来賓の皆様方から祝辞を頂戴し青木監査役(37年法卒)の乾杯の音頭で開宴の幕が切られた。

会は総会時の固さもほぐれ伊藤副会長の軽快な司会のもと和気藹々、談論風発、酒食に舌太鼓を打ちながら談笑に耽り恒例の事ながらカラオケ等の余興に興じ最後は岩重氏(45年政経卒)の力強い熱のこもった指揮のもと全員スクラムを組んでの校歌「白雲なびく」を声高らかに斉唱し写真撮影の後、20時過ぎ滞りなく会は終了し、令和元年度のスタートに相応しく「駿台八千代」の益々の隆昌を祈念しながら一同20時過ぎに散会した。

年会費納入のお願い

振込先：郵貯銀行
加入者名：明治大学八千代駿台会
口座記号：00110-0
口座番号：670291

振込先：千葉銀行大和田支店
口座名：明治大学八千代駿台会
科目：普通預金
口座番号：3367930

新春に集う平成最後の新年会



平成最後の新年会が 2 月 3 日(日) 18 時から八千代市ユアエルムに於いて来賓、会員、22 名参加のもとに盛大に開催された。

伊藤副会長の司会のもと冒頭に来賓、小林衆議院議員から新年の祝辞を頂戴し母校ラグビー部の 22 年振りの全国大学選手権優勝について称賛され、又来賓の皆様方から新年のご祝辞を頂戴し、次いで北川会長 (42 年工卒) の挨拶として日頃会員各位の協力について謝辞が述べられ特に本年 7 月 7 日(日)八千代駿台会創立 30 年に因んで第 10 回明治大学マンドリンクラブチャリティーコンサートを開催する旨の報告があり、併せて会員一同の一層の協力を乞う旨の呼びかけがなされた。

又母校のスポーツ面にも及び新春の箱根駅伝の不振 (17 位) についても触れ来年は予選会からのスタートになるが箱根駅伝のルーツ校 (明、早、慶、東京高等師範=現筑波大学) としての再起を図るべく期待する旨の檄…… 更にはラグビー部が「故北島忠次監督」の「前」への「座右の銘」よろしく強力 FW を擁して

22 年振りに大学選手権を制した快挙に賛辞があり、続いて本年 10 月に実施される全国交友千葉大会 (千葉県交友会担当) への会員諸氏の参加要請があった。

次いで懇親会に移り青木監事 (37 年法卒) の乾杯の音頭で華やかな懇親の幕が切られた。会は、参加者一同和気藹々料理に舌鼓を打ちながら談笑に耽り、恒例のビンゴゲームに興じ一喜一憂、宴も酣になるやカラオケも飛び出し女性陣の熱唱等、会は大いに盛り上がりアツと言う間に平成最後の新年会を過ごし、最後にスクラムを組んでの校歌斉唱も高らかに、又フィナーレとして伊藤副会長の渾身の音頭による「フレフレ明治」のエール唱和の後、慣例の写真撮影に移り 20 時 30 分過ぎに終了し、平成最後の新年会の幕を閉じ、参加者一同家路についた。



北川会長の挨拶 (マンドリン倶楽部チャリティーコンサート)

この度は明治大学マンドリン倶楽部第10回チャリティーコンサートにご来場頂き、誠に有難うございました。

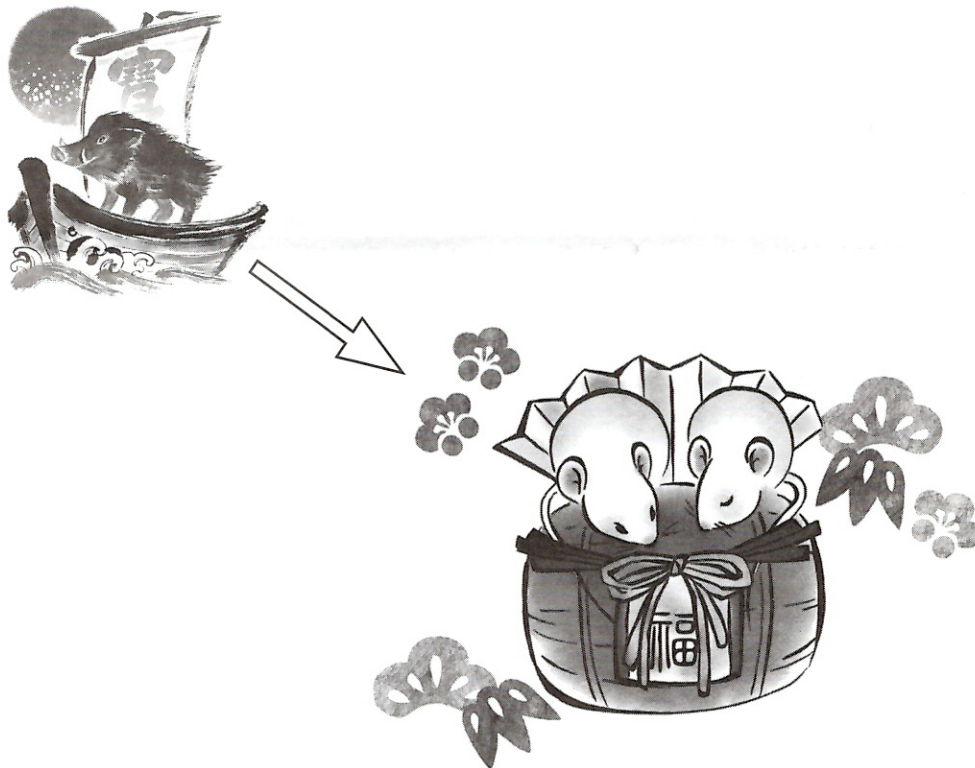
当駿台会は八千代市に在住する明大OB、OGが集い、平成元年に母校への賛助会員相互の親睦そして地域社会の文化及び福祉に貢献する事を目的として設立致しました。以来微力ではありますが地道な活動をして参りまして、去年で節目となる30年目を迎えることが出来ました。これも偏に皆様方の暖かいご理解とご支援の賜物であると感謝申し上げます次第でございます。

さて私共は平成3年以來過去9回に亘り地元の皆様方、そして関係諸団体の協賛を頂き、音楽を通じ社会福祉の一助となるべくコンサートを開催して参りました。各回共皆様方より好評を博し、再公演の要望の声を数多く頂いているところでご

ざいます。当マンドリン倶楽部は故古賀政男先生を中心として大正12年に創設されて、本年で97年目となり、今もなお世代を超えて多くの人々に感動と勇気を与えていております。今回も八千代市文化、スポーツ振興財団との共催で実施する事となりました。学生諸君が日頃より厳しい練習を重ねてきた成果をご覧頂き、本学が誇る“マンクラ”の伝統ある美しい調べを心ゆくまでご堪能頂ければ幸いです。

そして皆様方の拍手と暖かい励ましの言葉は学生たちにとって何よりのプレゼントであり、今後に大きな勇気を与える事と存じます。

終わりにあたり、当会員一同、皆様方のご来場を心から感謝を申し上げますと共に、今後につきましてもご支援ご理解をお願いし、御礼の挨拶とさせていただきます。



令和元年度 事業報告

ゴルフ部の活動

- 第29回 八千代駿台会ゴルフ大会
 - ・ 7月17日(水) 於 泉カントリー倶楽部 優勝：倉田 光多 氏 (9名参加)
- 八千代駿台会ゴルフ練習会
 - ・ 9月4日(水) 於 総武カントリークラブ 印旛コース 6名参加 (1位：倉田 光多 氏)
 - (今年は東部支部のゴルフ会には参加していません)
- 第19回 三校対抗ゴルフ
 - ・ 10月10日(木) 於 総武カントリークラブ 印旛コース
 - 優勝：稲門会 366.40P 2位：三田会 372.40P 3位：駿台会 390.0P
 - 29名参加 (当会7名)

令和2年度事業計画 ゴルフ部会

- 7月中・下旬 第30回 八千代駿台会ゴルフ大会 (ゴルフ場 未定)
 - 10月8日頃 第20回 三校対抗ゴルフ 総武カントリー 印旛コース (予定)
- (ゴルフ担当：喜田 茂)

好天のもと梨狩り満喫

昨年は、雨天により梨狩りは生憎の中止となったが、今年は好天に恵まれ夏の異常気象が尾を引き 30 数度の酷暑のもと 20 家族 40 人に及ぶ会員、家族等の参加を得て 9 月 7 日(土)桜井さん(61 年農卒)のご好意により桜井梨園を開放頂き梨狩り会が実施された。会は 10 時にスタートし冒頭に北川会長の挨拶の後、岩重理事の梨狩りに際しての注意事項、並びに園主桜井さんから梨のもぎ方、当園の梨の品種等について累々説明を受けた後、一同梨もぎへと散っていった……

豊饒で果汁滴たる大粒の梨を夫れ夫れ思い思いに食し、各所に参加家族中心に団欒の輪が拡がり子供達は、梨園内の「兜虫」等を求めて探索に走り廻る等々の元気の良さ。

併せて参加者一同梨園を取り巻く豊かな自然環境に大満足の態。

更には八千代国際協力交流の一環として現在来日中の外国人女性先生方 2 名 (ロシア出身) をゲストに招き国際色豊かな梨狩りでもあった。

次いで、梨狩りも一段落したところで 11 時過ぎに終了し、参加者全員による記念撮影の後、一同お土産の梨を手を帰路についた。

末筆ながら、梨園を開放頂いた桜井さんに感謝申し上げますと共に、計画頂いた事業部の皆さん有り難うございました。



躍動する駿台卓球クラブ

鈴木武士郎（41年商卒）岩本勝男（37年経営卒）両氏で始まって以来早4年。

クラブ員も年々増えて今や5名。

鈴木リーダーの初期の目的「市民大会に出場」を合言葉にクラブ員一同日々是、練習に精進中。昨年度は、岩本勝男、倉田明夫（39年経営卒）の両氏が八千代シニア卓球大会に出場したが、善戦空しく、次回に期待を持ち越した。

今年度、新たに島田秀夫（48年法卒）氏の入会を得た。

他方、さる7月3日（金）に開催された八千代シニアダブルス卓球大会には当クラブから4名2組（鈴木・岩本組・倉田明夫・島田組）が出場し、結果は鈴木、岩本組が3位入賞の快挙を成就した。（試合はリーグ戦形式）

尚、倉田・島田組は競合ひしめくリーグで善戦空しく今後に期待をこめ巻土重来を期した。

今後の卓球クラブのご活躍を祈ります。

（資料提供：鈴木 士四郎 氏）

東京六大学野球秋季リーグ戦観戦応援会中止

10月19日（土）秋季リーグ戦対慶応義塾大学との1回戦応援会は台風19号の余

波の関連から当日の雨天が予想された為、中止決定の止むなきに至りました。

（対慶応大学との対戦は1-4、1-2でストレート負け……明大は5位 慶応義塾大学が秋季リーグ戦優勝。又、来シーズンを期待しましょう。）



第十回チャリティーコンサートを終えて

柳沢 豊子（50年卒）

興奮の渦の中、マンドリンコンサートが終わった。紅潮した観客の顔を忘れないうちにいくらかでも、自分にとってのこの二十年間近くがなにであったのかをしたためておかななくてはという思いにかられた。

経済的自立をし始めてまもなくの頃、このコンサートのポスターを見たことに端を発するチャリティーの文言にひっかかったのである。ポスターの掲げているM氏の玄関を叩いたのである。「私にも、何か手伝わせてください」と頼んだのが、きっかけであった。ある年には、S氏にも頼みこみ、券をさばかせてもらっていた。いつごろ駿台会に入会したことやら忘れた。忘れる程に自分の生活は多忙をきわめていた。休みの日には、新しい仕事の勉強やら、ピンチヒッター専門講師や華道教授にあけくれていた。それまでは、おおよそ福祉や、チャリティーなどというものは暇な金持ちがやってくればいいくらいに考えていた。障害者厚生施設に法人格を取得させようと二、三年歌手を呼

んでコンサートを開いたこともあったが、その頃は余裕のあったとき。マンドリンの時は、食べるのに忙しい時の出会いであった。だがチャリティーの言葉にとうとうひっかかったのである。〇〇会に出る余裕もなくやれるかと思っただが、先輩方の導きで、少しづつ馴染んでいった。

そうか、チャリティーとは、何も肩肘張らなくともやれることを、やれる範囲で行い、参加もできない年、券もさばけない年があっても、同窓生に混じってやり続けることに意義があるのだと判ってきたのは、ここ六、七年のことかもしれない。現役を終えて、やっと〇〇会に出席できるようになって、先輩方に近況報告などできるのも、この駿台会に入会を誘われた結果の果実と、とても感謝している。思えば、学園紛争華やかかりし時代の、金華公園でのウチゲバを見たり、デモに参加したりの四年間。刑事政策で、栃木女子刑務所に何度か菊田先生に連れて行ってももらったくらいの貧しい学生時代の思いでしかないと思っていた。が軽音楽ソサ

イエティーのダンスパーティー参加や銀パりに繰り出し金子ゆかりを聞いていた当時をこの駿台会が徐々に思い出させてくれた。

とりわけ、今年のチャリティーコンサートの評判は極上であった。二ヶ月半も経つと言うのにいまだに、「良かったよ、今までで最高だった」の声を聞くと、素直に嬉しい。

先輩方が長い間積み上げて来られた実績の賜

物であろう。どんな時代を経ても、またどんな逆境の渦のさなかであろうとも、国境までも越えて今更のように音楽のもつ素晴らしさに言葉は要らない。

マンドリン倶楽部のラテンナンバーのCDを聞いていると、ああ、私にもきらきらしていた青春があったのだとしみじみ思い起こさせてくれているこのごろである。(2019.9.20)

ゆうちゃん

柳沢 豊子 (50年卒)

何年ぶりの邂逅であっただろうか。五十年間に三度目くらいかもしれない。

懐かしい声が受話器から聞こえてきた。普段ことさら連絡しあう人ではない。

逢えばとても懐かしい、胸を抱きしめたいくなる人、そんな人がこの私にもいたことを思い出させる。「あした、逢える？」

東京での、ひとり暮らしたアパート近くの銭湯でいつも出会う同い年くらいにしては少し大人びた女性。その人がゆうちゃんであった。当時、農林省に勤務しており、同僚の男性が、長野県の人で、その人に嫁ぐまでのつきあいであった。

同じ一人暮らしの気安さと、寂しさから、何でも話した。春の休みには、一度わがふるさとの実家に案内もした。菜の花畑で微笑んだ彼女の写真が一枚とってある。あの当時は、夜通しああでもない、こうでもない、大方の若者が、世の中や、政治について疑問に思うことをぶっつけあっていた。学校でも、同じアパート内の人達とも、酒を酌み交わし、お茶を飲みながら、議論したものであった。ゆうちゃんのそのときの、立場は近所に住む銭湯帰りに立ち寄りお隣のお姉さんというより、もっと身近に感じた。人のぬくもり、あたたかさを感じさせてくれるようなものであった。互いのアパートを歩き来して夜どおし何を議論しても、心から許しきった人はそう何人もはいない。そして当時のわたしにとって、このゆうちゃんとの会話には、なぜだか、ざわざわするわたしの心が、一時でも

落ち着いていったことを記憶している。

かつて生きることに疲れ果てていたころ、職場旅行の途中で立ち寄った峠の釜飯やで、にっこり微笑むゆうちゃんが立っていた。あれから二十年もたっていただろうか。

その次は息子をなくした友と上高地かっぱ橋の方をハイキングした折のこと。おそらく彼女の栽培したであろう、大きなアスパラガスを胸にかかえて、投宿のホテルまで訪ねてきてくれた時、遠い過去のようにでもあり、昨日のこのようでもある。

そして先日、船橋の改札口でにっこり微笑むゆうちゃんを迎えた。それからの二時間、何という心弾む時を過ごしたのか。明朝の彼女の品川での会議がなかったら、もうしばらく時を共有したかったところ。

「とよちゃん、かわらないね、体型以外」。お互い様を確認しあい別れを惜しんだ。

ゆうちゃんあのときがあったから何とか生きられたよ。少しビターでかけがえのない青春のひとつま。にっこり微笑む菜の花畑の若かりし頃のゆうちゃんにそっとかたりかけている……





育英小学校6年3組の同級会

倉田 光多 (46年卒)

私は台東区浅草橋で生まれ、近くには柳橋料亭、蔵前国技館、両国橋、相撲部屋と風情のある下町で育ちました。小学生の頃の想い出、六月には蔵前通りに面した「日本武尊」を祀って白馬神社に称したのに始めるとされ、前九年の役のおり源義家がこの知を訪れ鳥越大明神と改めたと伝えられる鳥越神社の例大祭(お祭り)です。

都内随一の重さを誇る「千貫神輿」の宮出しと神社の周りに立ち並んだ沢山の屋台に多くの人々で大そうな賑わいでした。

子供達はお祭りの日には朝からハッピーを着込み町内の子供神輿を担いでいました。その後、同級生の実家が営むお風呂屋さんで一番風呂。夕方から神社の夜祭りに出かけました。屋台で買った「あんず飴」今でも美味しかったことを憶えています。

そして七月には、江戸時代八代将軍、徳川吉宗が打ち上げた「両国川開き花火」を起源とする日本最古の花火大会です。当日は午後三時過ぎから開催合図の花火が上がります。同時に町内に、一緒に打ち上げた落下傘が落ちてきました。子供達はそれを拾うのが楽し

みでした。この花火大会の巻引きは仕掛け花火です。一度だけ父に連れられて柳橋料亭の船から両国橋にかかる仕掛け花火を見ました。隅田川の水面に映え迫力と美しさは何時までも忘れられない映像でした。そんな幼馴染と卒業した小学校はJR浅草橋から歩いて五分、区立育英小学校です。同校は明治三年創立、区内でも歴史ある小学校です。

卒業した六年三組は恩師をお招きした同級会を二十年間続けています。

恩師は学校の先生としては、初めての赴任先で私達は卒業第一期生でした。更に恩師のお母様も同校で教えていたと聞いており、不思議な縁を結ばれています。

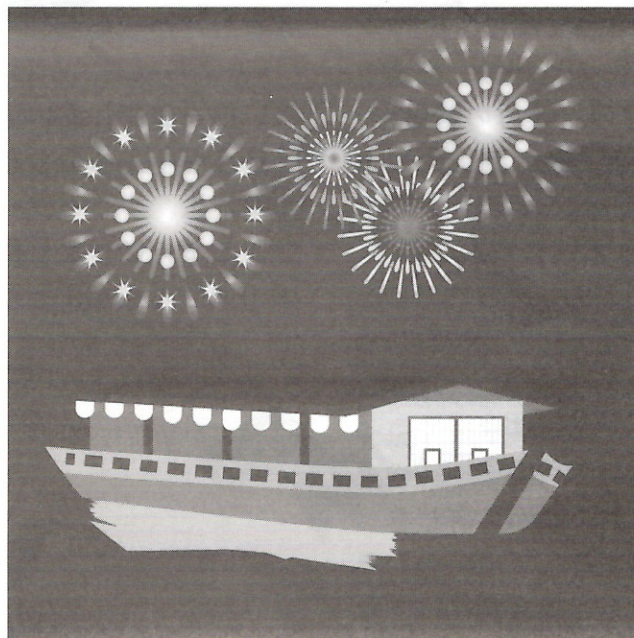
去年は同級生の古希の祝いとして恩師から一人一人に手書きのしおりを頂きました。紹介します。

古希おめでとう

今までの人生に感謝

これからの人生は心優しく

心温まるお言葉を頂き心からリスペクト。これからもこの「六三会」は恩師をお呼びし楽しいひと時を過ごせること切望。





演奏会のパンフレットとパネル展示

倉田 正之 (39 年卒)

「明治大学マンドリン倶楽部チャリティーコンサート」が地元の八千代市市民会館大ホールにて7月7日(日)に開催された。昨年の10月に実行委員会を発足させ、役割分担を決め、それぞれ準備に入り、開催日の日時、ゲストを検討した。私は前回に続き「ポスター・チラシ・パンフレット・チケット・看板等」のデザインを編集委員長として担当することとなったが、更に駿台会30周年を記念して第1回～9回の歩みを「パネル展示」しようという計画が持ち上がり、実施することになった。演奏会は3年毎の開催なので、第1回は30年前(平成3年)であり、当時の資料が揃うかが心配であった。

印刷業者は前回と同じなので、今回の基本的なデザイン等の打ち合わせに入った。まずは京成駅や関係諸団体その他に貼って貰うポスター・チラシの製作から始めた。「ゲラ」が出来上がり、役員会で決定したが、大変なアクシデントが発生してしまった。というのはゲストを予定していた歌手が日程と体調不良により、不可となり急遽「アントニオ古賀」に決定し、早速印刷に回し、事なきをえた。

チケットの準備も終わり、いよいよ最大の難関である「パンフレット」への広告掲載先の確定と新規先の獲得であった。前回の広告掲載先が継続掲載並びにロゴ等の変更の有無を確認すると共に新規先についてはデザインの希望を聴取、デジカメ写真撮影、インターネットを活用等でゲラを製作→依頼先の了解→協賛金の集金等1社当たり5回は訪問が必要となり、新規先は10社あるので、苦労の連続であった。コンサート開催日の1ヶ月前には、マンドリン倶楽部より演奏曲目・演奏メンバーの一覧も到着し、支障なくパンフレットは完成した。

もう一つの「パネル展示」については、第1回～9回迄と今回もマンドリン常任指揮者甲斐靖文先生であり、第1回のゲストは藤山一郎か

ら第10回のアントニオ古賀までの資料が集まるかが心配であったが、第1回は30年前の平成3年6月30日(日)であったが、藤山一郎の当日のポスター・パンフレットが綺麗に保存されていた。尚、藤山一郎はこのコンサートの2年後の平成5年8月21日82歳で死去された。2回目以降のチラシ・パンフレット・写真等も役員が保存していた資料を提出して貰い、どうにかパネル展示の材料が揃った。

同ホールのロビーで「明治大学八千代駿台会創立30周年記念パネル展」——第1回～9回チャリティーコンサートの歩み——のタイトルで展示を実施した。観客は熱心に観て頂き、大好評であったが、甲斐先生は全ての演奏会で指揮を執られた関係で、熱心に観て回り特に第1回の藤山一郎のポスター・パンフレット等は非常に綺麗に保存され、又「パネルのレイアウト」・「パンフレット」のカラーも綺麗で「素晴らしい」の連発で感心されていた。

演奏会の当日は、早くから来場者にあふれ開場を早め、満員の大盛況のなか、ロビーに於ける「パネル展示」・綺麗に出来上がった「パンフレット」を熱心に見入っていた。甲斐靖文先生の指揮のもとOPの明大校歌の軽快な演奏で幕が上がり、ゲストのアントニオ古賀さんの大病(昨年末には呂律がまわらなかった)を患った後とは思えぬ程の迫力とユーモアたっぷりの語りは、プロ根性を十分に発揮されていた。甲斐靖文先生・アントニオ古賀先生からのお褒めの言葉、更に来場者からもカラフルな「パンフレット」・「パネル展示」も感動と感謝の言葉を頂き編集委員長として苦労が報われた思いでいっぱいであった。

更に、「甲斐靖文先生」及び某企業の社長からもおほめいただいた印刷業者をご紹介することとなり、1ヶ月後に両社長の顔合わせに同席した。これを期に商談がまとまればこんなに嬉しいことはないと思っている。

八千代市社会福祉協議会から感謝状を授与

去る6月22日(土)八千代市市民会館小ホールで開催された「社会福祉協議会法人化50周年」の福祉大会に於いて、当八千代駿台会が感謝状の贈呈を受けました。

永年にわたる社協への寄付行為(マンドリン演奏会の収益からの寄付……第1回から毎回の10回)が認められたことと受け止めています。



編集後記

会員の皆様には
ますますご清栄の事と存じます。

平成の時代も本年4月に終止符を打ち新たに5月1日から令和元年を迎え平成天皇の退位から令和天皇の即位へと変遷し、更に10月22日即位の礼が執り行われ日本国が目まぐるしく変化していく今日、当八千代駿台会も創立30周年を迎えて記念行事の一環として第10回マンドリンクラブチャリティーコンサートを八千代市市民会館において開催し会員の皆様、並びに関係各位のご協力の下、大盛況の中終了し誠にありがとうございました。

又、会報32号の発行に際しましては会員有志の方々からのご投稿頂き有り難う御座いました。

翻れば今年も又内外共に激動の年でした。国際的には米トランプ大統領の思惑通りに進まない数次に亘る米朝会談、その合間に縫って北朝鮮による短距離弾道ミサイルの試射と称する度重なる日本海を視点とする実射の実施。

他方、国内的には本年7月実施の参議院選挙

で自民党が三分の二以上の議席を確保する圧勝振り。

次いでギクシャクする日韓関係、韓国人元徴用工問題を起点に端を発し更には経済、軍事問題をカラメテの日韓不和問題。

社会的にも相も変わらぬ凶悪犯罪の続出。京都アニメの放火大量殺人、登校中の児童等を襲う無差別殺人事件等々その残忍な行為は枚挙に暇ない。

それに追い打ちかけるかのごとく毎年の自然災害の続発。我が居住県である千葉県を中心に襲った台風15号19号風水害の痛ましき惨状。

また明るいニュースと言えば日本で開催されたラグビーワールドカップ大会。日本念願のベストエイト入りで日本中を大いに沸かせた明るいニュース、しかし世界の壁は厚く巻土重来を期するのみ。

会報32号は新元号「令和」の発行となりました。また更に来年は東京オリンピックイヤーでもあります。

会員の皆様にはご隆昌且つ益々お元気で良い新年を迎えられる事をお祈り致します。

なお、皆様からのご投稿をお待ちしています。題材自由です。ふるってご投稿下さい。